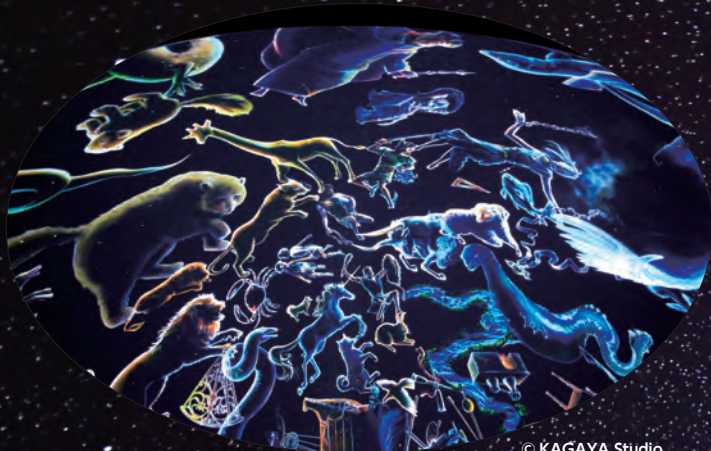


「学び」と「癒やし」プラネタリウム



© KAGAYA Studio

少年科学館のプラネタリウムはデジタル式投影機で、一度に12万個の星を映し出すことができます。デジタル式は映像の自由度が高く、目の前に迫る惑星のダイナミックな映像や、楽しいアニメーションなどを投映できるのが特徴です。

投映の最初には、当日の市内の星空を映し出し、その日に見ることができる星座を解説者が分かりやすく説明する「星座の解説」があります。普段はなかなか見ることができない満天の星空がドームいっぱいに広がると、その美しさに歓声が上がります。

同館の投映番組は、大きく分けて一般投映と学習投映の2つがあります。一般投映は人気ア

ニメなどのプログラムを楽しみながら天文について学ぶことができます。学習投映では季節に合わせた星座や惑星など、天文についての詳しい解説を行います。また、市内の幼稚園、保育園、学校の団体に利用する場合は子どもの年齢に応じた内容で、映像と解説で分かりやすく説明します。

プラネタリウムでは天文に関する知識を得ることができるだけでなく、美しい星空によって心が安らぐなど、癒やしの効果も期待できます。親子で訪れるのはもちろん、大人同士でも楽しめるスポットです。時には喧騒を離れ、満天の星空を眺めながらゆったりとした時間を過ごしてみませんか。



立体的で動きのある土星をさまざまな角度から見るができます

特集 想像力と探究心を育む

少年科学館

星きらり

少年科学館「星きらり」は、科学に関するさまざまな体験を通して科学への関心を高め、知識を深めることができる施設です。今回の特集では、同館のプラネタリウムの見どころや30年続く少年科学教室の紹介、「おもしろ工作ひろば」や「サイエンスショー」などのイベントについて、ご紹介します。

科学の視点でものづくりを楽しむ おもしろ工作ひろば

毎週土・日曜日には、身近な科学の力を使った「おもしろ工作ひろば」を開催しています。予約なしで参加することができ、材料費は50円～200円程度です。

親子で一緒に工作

今回の工作は「空飛ぶジージーゼミで遊ぼう」。担当の久野正明さんが作り方を説明しながら工作を進めます。セミに見立てたフィルムケースを細い棒と糸でつなぎ、棒を回すとジージーと音が鳴るおもちゃを作ります。まだ小さい子どもは、きょうだいや大人に手伝ってもらいながら工作していました。

ジージーと鳴る仕組み

回したときに鳴るジージーという音は、棒に塗られた「松やに」によって発生します。松やにを塗った箇所は滑りにくくなり、そこに糸がこすれると摩擦で音が出るのです。

工作の最後には音が鳴る仕組みも説明しています。

ものづくりの喜びを

「おもしろ工作ひろばでは、子どもたちにより多くの経験をしてもらいたいので工作するものを毎週変えています。今の時代は既に出来上がっているものを使うことがほとんどですから、ものづくりの喜びを知らない子どもも多いと思います。工作を通して、ものをつくる喜びや達成感を知ってほしいです。そして、なぜそうなるかという仕組みにも興味を持ち、考えるようになってもらえたら嬉しいですね」

(取材日 9月17日)



工作を教える
久野正明さん



(左上)おもちゃの作り方を説明する久野さん(右上)棒とつなぐためにフィルムに糸を通します(左下)松やにを塗って滑りにくくします(右下)空飛ぶジージーゼミの完成品

科学の知識を深める 少年科学教室

少年科学教室は科学に関するさまざまな知識を深め、探究心を育む教室で、毎年5月から11月にかけて開いています。分野や年齢に応じて9つのクラスがあり、対象は小学1年生から中学3年生です。今回は小学4～6年生を対象に開催された「楽しい実験」のクラスを取材しました。

楽しみながら「なぜそうなるか」を考える

この日は「空気の力」をテーマに空気の重さや気圧などを実際に確かめる実験を行いました。空気を入れた容器の重さを量ったり、吸盤が机や壁にくっつく様子を観察したりするなど、空気によって起こるさまざまな現象を楽しみながら学んでいました。

実験で使用した道具の一部は、家に持ち帰ることができます。この教室を担当する梅崎智子さんは「その日学んだことを家で確認したり、家族の前で実際にやってみせたりして会話ができるようにしています」と話します。

「少年科学教室の生徒は自分の学びたいクラスを選んで応募した子どもたちなので、みんな熱心に取り組んでいます。実験や工作を楽しむだけではなく、こうした体験を通して日常でも『なぜそうなるか』を考えるきっかけにしてほしいですね」



教室を担当する
梅崎智子さん

30周年を迎える人気の教室

少年科学教室はこととして30周年を迎える人気の教室で、毎年4月ごろに受講者を募集します。ぜひ興味のあるクラスに応募してみてください(途中からの受講はできません)。

(取材日 9月18日)



(左上)ペットボトルを押すと中に入った重りが沈む「浮沈子」の実験(左下)気圧に関する実験。水を入れたコップに板をふたをして逆さまにしても、板を押す空気力によって水がこぼれず逆さまにしている様子(右)空気の重さを量る実験

平成28年度 少年科学教室 ※今年度の募集は締め切っています。来年度の募集は4月頃に行います。

クラス名	対象学年	主な内容
りかあそび	小学1～3年生	楽しく遊びながら身近な科学の不思議を解き明かす
いきものとあそぼう		主に市内の野山や川で生物に触れながら観察する(保護者同伴の活動)
楽しい実験	小学4～6年生	楽しい実験や工作を通して科学の不思議を解き明かす
自然発見	小学4～中学3年生	主に市内のさまざまな場所に出入りして自然を体感したり、生物を観察したりする
発明		日常生活をもっと夢のある便利で快適にする「もの」を考え、実際に作る
天文		プラネタリウムでの学習や、天体望遠鏡を使ってさまざまな天体を観測する
楽しい電気	小学5～中学3年生	電気や電子部品を使った工作や実験を通して、電気電子工作の基礎を身に付ける
探究サイエンス		テーマをみんなで話し合い、科学の自由研究を行う
プログラミング	小学6～中学3年生	パソコン上で動くプログラムを作りながら、情報処理の基礎を学ぶ

星きらりで遊ぼう

少年科学館のスタッフがお薦めする星きらりの遊び方を紹介します。
※いずれも土・日曜だけのコースです。



その他のイベントも多数開催!

少年科学館では「天体観望会」「自然観察会」「大人のための夜プラネ」「プラネタリウムコンサート」など、季節によってさまざまなイベントを開催しています。イベント情報などは同館のホームページやフェイスブックで随時お知らせしていますので、ご覧ください。また、プラネタリウムの放映スケジュールは、広報させほの「施設だより」(今月号は17ページ)でも毎月お知らせしています。

ホームページ
<http://www.city.sasebo.lg.jp/kyouiku/syonen/kagakukan/index.html>

フェイスブック
<https://www.facebook.com/hoshikirari/>



アクセスについて

車または徒歩

国道204号線沿いを走り、宮田郵便局を佐世保駅方面からは左折、大野方面からは右折し、そのまま道なりに進むと正面右手に「総合教育センター」の案内板があります。

市営バス 佐世保駅→総合教育センター(直行便・定期運行)

※バスの時刻表については、同館のホームページをご覧ください。

● 開館時間 9時～17時 ● 休館日 火曜、祝日



特集に関する問い合わせ 少年科学館 ☎23-1517

親子で楽しめる サイエンスショー

毎週土・日曜の14時から開催しているサイエンスショーでは月ごとにテーマを変え、科学に関するさまざまな実験を行います。

目で楽しむ炎のショー

9月のテーマは「燃える実験ショー」。いろんな金属を燃やして炎の色の違いを確かめたり、水素をシャボン玉に入れて燃やしたりするなど、火に関する実験を間近で見ることができました。参加した子どもたちは、炎の色や燃え方の違いを興味深そうに眺め、担当者の説明を真剣に聞いていました。

見えやすさ、分かりやすさを大事に

サイエンスショーを担当する松永歩さんに、ショーを行うときに心掛けていることを尋ねると「たくさんの参加者が来られたときにも、実験の様子が見えやすいように、ビデオカメラの映像をプロジェクターに映すなどの

工夫をしています。また、『えっ?』『わあ!』という驚きが感動に変わるよう、丁寧に説明することを心掛けています」とのことでした。

親子で楽しんでほしい

サイエンスショーでは、大人でも驚くような実験を通して、さまざまな科学の不思議を学ぶことができます。

「子どもたちはもちろんですが、一緒に来る大人にも面白いと思ってもらえるような実験を目指しています。初めてサイエンスショーを見た親子がファンになって、科学への興味を持ち、また一緒に見に来てもらえたら嬉しいです」

(取材日 9月17日)



サイエンスショーを行う松永歩さん



(左) 金属を液体に溶かしてガスバーナーの火に吹き付ける実験 (右) 見えやすいようにプロジェクターに映しながら実験します



サイエンスショーのテーマ 11月:サイエンスマジックショー 12月:なるほど天気予報



温まると青からピンクに変わるサーモシートを使い、物の温まり方を観察します

科学への関心を高める 少年科学館理科学習

少年科学館では、プラネタリウムや天体望遠鏡を使って学校ではなかなかできない学習をしたり、面白い理科の実験をしたりして、科学への関心を高めることを目的に「少年科学館理科学習」を行っています。市内の小学4年生を対象に実施しており、年間約2,300人の児童が利用しています。